

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

① 教員養成の目標

本学は120年を超える歴史と伝統を有する大学であり、創立以来、中等教育の教員養成を中心的な使命の1つとして位置づけ、教師教育を通じて我が国の教育の発展に寄与することを主要な課題として認識し、これまで多くの有為の人材を我が国の教育界に輩出してきた。

とりわけ京都府の教育界において、本学出身者は量的にも質的にもきわめて重要な位置を占めてきており、京都府民の本学に対する期待も大きく、優れた教員を引き続き輩出していく。また、狭義の教員養成にとどまらず、現職教員の大学院受け入れや教員免許状更新講習の開催等により、現職教員の資質能力の向上にも寄与している。

② 教職課程の設置趣旨等

本学は現在、2008年度の法人化に伴う学部・研究科の改組改編、2019年度の新学科開設により、3学部12学科、3研究科7専攻の構成である。その多くの学部・学科、研究科・専攻で教職課程を設けている。学校種と免許教科は、中学校・高等学校の国語、英語、社会、理科、地理歴史、公民、福祉、情報、農業であり、さらに栄養教諭の養成にも積極的に取り組んでいる。

本学はまた、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学と連携して教養教育共同化に取り組んでおり、教養教育の総合的展開に専門教育を体系的に接合し、そのなかで教職課程も有機的に結合させて、質の高い教師教育の実現を目指している。

小規模大学で少人数教育に特徴のある本学では、教員と学生との密接な関係のなかで高水準の教育・研究を実現するという伝統を有する。この伝統を踏まえ、教科と教職の関連科目の密接な連携、体系的な実習指導と実践的な指導力の基礎の形成、丁寧な個別指導と進路指導等を通じて、使命感に満ちた力量ある教員の養成に尽力している。

③ 教員の養成に係る取組

入学年度当初に教職課程履修希望学生に対する履修ガイダンスを実施し、毎年度当初に各学年に対応した履修ガイダンスを実施している。あわせて、毎年度、複数回、教育委員会担当者を招くなどして、教員採用試験の詳細な情報提供や受験対策等を行っている。

「教育の基礎的理解に関する科目」等については、全学共通に開設し、1、2年次に基礎・基本の科目から履修できるよう配置している。3年次からは、京都府教育委員会や京都府立学校の協力・連携のもと、「学校インターン」「教職インターンシップ」といった学校現場での中長期的な活動に取り組むことができる。また、介護等体験や教育実習・栄養教育実習の事前指導を実施し、4年次には実習とその事後指導、後期には退職教員等の教職経験者のもとで「教職実践演習」を行っている。

また、免許状の各教科に係る「教科及び教科の指導法に関する科目」については、各学科等において年次ごとに専門教育科目等を配置するなどして、計画的な履修を指導している。

④ 教職課程運営組織

本学の教職課程については、教員養成の取り組みを強化し教職志望学生の支援を充実させるため、2016年度から全学組織として「京都府立大学教職センター」を設け、運営している。教務部長がセンター長を、教職専門部会と教科専門部会の各部会長が副センター長をつとめ、学長任命の委員から構成される。

センター内に「教職相談・支援室」を設けて教職経験者を配置し、教育委員会や学校との日常的な協力・連携関係を構築して、学校インターンなどの体験活動や豊富な教職経験を有する実務家教員による授業等を実施するとともに、教職課程履修学生の相談や教員採用試験受験希望者に対する支援を日常的に行っている。